

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	0170504153		
法人名	有限会社ライフアート		
事業所名	グループホーム福寿荘		
所在地	札幌市白石区北郷5条9丁目8-33 (電話)011-879-5611		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成19年6月13日	評価確定日	平成19年7月27日

【情報提供票より】(平成19年5月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 30日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	16 人	常勤 11人, 非常勤 5人, 常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建て	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(195,000円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 無()	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要(5月30日現在)

利用者人数	14名	男性	4名	女性	10名
要介護1	0	要介護2	1		
要介護3	5	要介護4	6		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 74歳	最低	57歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどり内科クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所の代表は、認知症介護の在り方を探求し先進国の視察・研鑽を重ね、福寿荘の開設に至った。尊厳・自立の精神の下、利用者主体の介護サービスを提供している。また、「安心して暮らせる社会づくり」を理念に掲げホーム機能を中核にした地域づくりを目指し、医療機関との密なる連携づくりに取り組んでいる。当事業所には全国唯一の若年性認知症の利用者を対象にしたユニットがあり、職員と共に日々穏やかに暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今度が訪問調査初めてである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価はホーム長と職員代表が行い、その結果を全職員に報告し協議・共有を図っている。また、評価結果は質の改善に向けて今後も計画的・継続的にケアに活かす予定である。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	事業所の建築に至る過程から地域との信頼関係が築かれてきた中で、平成18年8月に設置・開催された。会議において検討された内容を謙虚に受け止め、更なる質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	来訪時にケアプラン・生活記録を家族に提示し、利用者の生活の様子を報告している。また、家族に連絡ノートへ意見・要望等を自由に書いてもらい日々のケアに活かしている。外部への苦情相談窓口は、重要事項説明書に示しており明確である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	当事業所は町内会に加入しており、資源回収や掃除などの活動や、盆踊りなどの行事に参加している。また、散歩の際に地域住民と会話したり、事業所にボランティアが来訪するなど地域との交流が図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心して暮らせる社会づくり」を理念に掲げ、地域に根ざした運営が行われている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を共有し、利用者一人ひとりに応じた介護サービスを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、資源回収や掃除などに利用者も参加している。また、ボランティアの受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はホーム長・職員代表が行い、その結果を全職員に報告して協議・共有を図り、ケアの改善に繋げている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域・家族の代表に行政職員が加わり平成18年8月に設置・開催された。設立の趣旨や位置づけが明確になっており、希望・要望などを謙虚に受け止め質の改善に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市が主催する各種連合会や研修などを行っているが事業所の現状に即した質の改善・向上に向けた密なる連携には至っていない。</p>	○	<p>今後、市町村と共に事業所の現状に即した連携を図る取り組みの働きかけを期待する。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が来訪時にケアプラン・日常記録を提示し、利用者の状態変化や金銭出納について報告している。また、必要に応じて電話連絡も行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>連絡ノートを活用し、来訪の際に家族に意見・要望等を書いてもらい、運営や日々のケアに反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今のところ常勤職員の異動はないが、非常勤職員・パート職員の退職者がおり、利用者へのダメージ緩和に努めている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の立場や経験に応じた研修を実施しており、職員は積極的に参加している。また、市やグループホーム協議会が主催する研修会にも参加しており、研修後は報告会を行い内容の共有を図っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム間のネットワークができており、相互に見学や研修会を開催し、協働しながら人材育成や質の向上に努めている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望の申し込みの際には、利用者宅を訪問し、信頼関係をつくりながら入居への環境調整を行っている。また、多くの利用者が当事業所に併設されているデイサービスを利用してからの入居のため、顔馴染みの関係が築かれている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「介護する人・介護される人」の枠を越え、共に生活を楽しむ信頼関係が築かれている。また、利用者に対しての職員の声かけは常に穏やかであり、共に支え合う関係が構築されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの思いや希望・意向について職員は常に心に留め、利用者の表情や行動からも把握できるように努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居申し込みの訪問時に、家族にアセスメント用紙に記入してもらい、本人・家族の意向を踏まえて全職員でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。作成された介護計画は家族に説明しており、利用者主体の介護計画になっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>現状に即した介護計画が作成されており、利用者の状態変化や本人・家族の要望に応じた見直しを行っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者・家族の状況を踏まえた外出・外泊・移送サービスを行っている。また、自宅で暮らす高齢者の緊急ショートステイや住み替え支援、重度化・終末期の支援など柔軟なケアを実践している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>多くの利用者は協力医の訪問診療を受診している。また、入居前からのかかりつけ医に家族同行による診療を受けている利用者もいる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に「終末期・重度化の生活支援・指針」について説明し、納得した上で署名・捺印をもらっている。また、利用者の心情・状態変化時にはそのつど意向確認を行っており、本人・家族・職員で方針を共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>日常的に尊厳のある生活・ケアの実践をケアプランに基づいて取り組んでおり、利用者のプライバシーを損ねることのないような対応の徹底が図られている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の生活リズムに合わせた生活支援が行われており、個性を大切にしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・配膳・食器拭きなど、利用者の力量に応じた場面づくりの工夫がなされている。また、職員は利用者と一緒に食事を摂っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の心身の状態や意向を確認し、ゆっくりと入浴できるような支援を行っている。利用者の希望に合わせ、入浴剤を使用するなど入浴を楽しめる工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、一人ひとりに合った楽しみ事や役割を見つけ出し、充実感や達成感を持てるような生活支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は声掛けをし、散歩・買い物・理美容院への外出支援を行っている。時間帯や行き先などは利用者の希望を大切にしており、家族と共に外出する機会もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の状態把握に努め、見守り・声掛けを行い日中は施錠せず自由な暮らしができるような支援を行っている。また、利用者が外に出るような様子の時には、さりげなく声かけをし、安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	利用者参加の避難訓練を年に2回実施しており、防火管理者の指導の下、ボイラー周辺や避難路の点検を毎日行っている。	○	事業所だけではなく、今後は地域住民・警察・消防署等と連携した災害時対策が必要であり、さらなる地域との協力体制づくりが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	1日の摂取カロリーを1500～1600キロカロリーとしており、栄養バランスが考慮された献立が作成されている。また、職員は利用者の食事量・水分摂取量を確認し、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共用空間は利用者に配慮した造りになっており、季節を感じられるように花や装飾品に配慮がなされている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室には使い慣れた馴染みの家具や調度品が持ち込まれており、利用者が安心して過ごせるような居心地の良い居室になっている。		

 は、重点項目。